聖書宣教会通信

Japan Bible Seminary Newsletter

No.169
2017.6.1

巻頭言
Greeting

× 赤坂 泉
Izumi Akasaka
聖書宣教会 主任牧師・校長

Profile

1959年生まれ。三重県伊勢市での16年余の牧会奉仕を経て、2003年より聖書神学舎専任教師として奉職。今年度から主任牧師・校長となる。

主のわざに励む

「聖書信仰を堅持してみことばに仕える伝道者の養成」がこの学舎の創立以来の使命です。校長が交替し、教師・講師陣の世代交替も続きますが、この立場と目的は変わりません。前号でお知らせした体制の変化、この「通信」の刷新など、積極的な変化を私たちは続けますが、理念においては変わることなく、主に仕えてまいります。主にある教師会の一致、講師、職員、協力者たちの主への献身が学舎の動力です。

4月の入会式で、私は第一コリント15章58節から説教しました。「堅く立って、動かされず」と、しっかりと腰を据えた堅固な姿勢で主に仕えることが求められます。これは決して精神論的なエールではありません。コロサイ1章23節の類似の思想が、私たちの拠るべき座標軸を明示しています。それは「すでに聞いた福音の望み」です。なるほどコリント教会に対しても15章全体が福音を確認しています。聖書の福音を基準にしてそこに自らを据えよ、という具体的な迫りなのです。信じる前の価値観や世間の常識、ギリシヤ哲学の影響や土着の民俗宗教に揺さぶられるな、聖書の福音を基準とせよというのです。現代のキリスト教会にも極めて重要な迫りです。「主のわざに励みなさい」は、主のための働きに専心せよ、主のわざがいつもあふれているようにせよ、結果そのことにおいて傑出しているようであれ、という要請です。私たちの現実には何があふれているか、私たちは何に注力しているか、と鋭く問われます。さらに「労苦」という語。パウロがしばしば伝道者の働きについて用いる語で、それは苦役であり、重労働だ、というのです。すでに紀元二世紀にこの語を伝道者について用いる例が減り始め、その傾向は現代まで続いていると思われますが、私たちはパウロのこの描写を直視すべきです。それは確かに労苦です。しかし幸いなことに、それは「むだでない」のです。確かな結実のために注力できる人生は何と幸いなことでしょう。主に従い、主に仕える特権を感謝します。どうか教会の主が、伝道者たちの姿勢を整えてくださり、座標軸を正してくださり、本務に専心させてくださいますように。そうして、日本とアジアと世界の教会を整え祝福してくださいますように。

幸いな入会式の翌週、羽鳥明先生が96歳で主のみもとに凱旋されました。次号で改めて先生を覚えたいと思いますが、一言だけ。羽鳥先生は舟喜順一先生たちと、祈りと力を合わせて学舎の創立に尽力し、聖書信仰を堅持して、教会のわざとして学舎を営む労苦を担い、実を残してくださいました。この信仰の遺産を大切にして、私たちは主のわざに励みます。

諸教会、皆様のお祈りとお支えを感謝し、祝福をお祈りいたします。

No.169 Topics

- p03 新入会生紹介
- p04-05 卒業生の紹介とあかし
- p06 新入会生を送り出す教会の声
- p07 学びの窓

愚かで、しかし、しっかりつかまえられて

伊藤 暢人
Nobuhito Ito
聖書神学舎 教務主任

主の御名があがめられますように。聖書神学舎のためにいつもお祈りくださり、まことにありがとうございます。主の恵みと主にある兄弟姉妹の祈りに支えられ、今日まで学舎の歩みと働きが守られてきたことを覚えます。

新体制スタート

既報のとおり、今春から体制が改まり、赤坂泉先生が校長となり、これまで校長の労を担ってきた鞭木由行先生が特任教師（研修生活主任）となりました。新体制となったわけですが、同じ顔が見えているせいか、研修生も教職員もいつものような落ち着いた雰囲気の中で新学期をスタートさせています。

送り出し、迎え

三月には五名の卒業生を送り出しました。伝道と牧会の現場で主のために奮闘してくださることを願ってやみません。同時に、周囲にいてくださる方々は祈りと忍耐をもって見守り、成長を励ましていただければ幸いです。

そして四月には十名の新入会生を迎えました。甲子園あと一歩だった元高校球児、かつては黒板を背にしていた元教師たち（今は黒板に向かう日々）、日本宣教に仕える韓国人宣教師などなど、今年も主が送ってくださった方々はバラエティに富んでいます。五名を送り出し十名を迎えたわけで、学び舎は少し賑やかになりました。昼食時に使うテーブルが一つ増えたのがその象徴的なところでしょうか。全研修生数は二七名です。

新入会生に関してもう一つの特筆すべきことは、教会音楽専攻に三名の姉妹たちを迎えたことです。三年ぶりの在籍になります。音楽専攻の教師たちや卒業生たちの祈りの実であり、また母教会が大切に育て送りだしてくださった方々です。また、昨年開催した教会音楽ミニ講習会が盛況だったことも併せて考えると、教会音楽についての潜在的な需要は小さくないのでは？とも思わされるところです。

春はチャペルで新入会生の証しが語られ、そしてピクニック、祈りの日、神学校親善ソフトボール大会と続きます。夏にはキャラバン伝道が行われ、今年も五つの教会で伝道実習をさせていただきます。迎えてくださる教会の御労と祈りを覚えて、感謝いたします。

愚かで、しかし

詩篇七三篇二二節から二三節にこうあります。「私の心が苦しみ、私の内なる思いが突き刺されたとき、私は、愚かで、わきまえもなく、あなたの前で獣のようでした。しかし私は絶えずあなたとともにいました。あなたは私の右の手をしっかりつかまえられました。」

神学生が経験する心の苦しみ、突き刺される思いは様々です。能力的なこと、健康のこと、信仰的人格の欠け・不足、経済に関すること、家族のこと…愚かでわきまえのない獣のような自分を発見することでしょう。それは非常に辛い現実であり、また、教えていただかなければならない重要な気づきです。そしてそうした中で、主が、右の手をしっかりと支えてくださることも経験してほしいと願っています。主の真実、そしてその摂理の中で具体的に用いられ助けてくれる人々…そんな支えがあって初めて継続され、全うされるのが奉仕の生涯であることを、学舎にいる間に知って欲しいと思うのです。一生ものの霊的知的基盤となるような学びと訓練が与えられ、伝道者としての力が培われるように。

お祈りください

最後になりますが、新校長となった赤坂先生のために、またもう一名の専任教師が与えられるように、お祈りくださいますようお願いします。

あなたは私の右の手をしっかりつかまえられました

詩篇73篇23節

02 新入会生 New Students

左から、福井、丸毛、木下、中村、長澤、吉田、重田、國分、岡村、金

氏　名	出身教会		奉仕教会
聖書神学舎本科 [6名]			
岡村　建	日本福音自由教会協議会	川口福音自由教会	川口福音自由教会
金　在賢	大韓イエス教長老会	清涼教会	東村山福音自由教会
國分　力	日本福音キリスト教会連合	足立キリスト教会	足立キリスト教会
重田　岳史	日本福音キリスト教会連合	秦野詩音キリスト教会	秦野詩音キリスト教会
長澤　和裕	日本福音キリスト教会連合	佐倉福音キリスト教会	佐倉福音キリスト教会
吉田　真太郎	日本福音自由教会協議会	仙台福音自由教会	川越福音自由教会
聖書神学舎聖書科 [4名]			
[聖書専攻]			
木下　奈津子	日本福音自由教会協議会	祝園チャペル	東大宮福音自由教会
[教会音楽専攻]			
中村　愛希子	日本バプテスト連盟	佐賀キリスト教会	小平聖書キリスト教会
福井　純子	日本バプテスト教会連合	玉川キリスト教会	玉川キリスト教会
丸毛　順枝	単　立	高崎キリストチャペル	キリスト教朝顔教会

みこころの時に

長澤 和裕

「直接献身の思いのある人は前へ」この招きの言葉が、30年前のペンテコステ聖会で、メッセージ後に講師の先生からありました。私は神様に背中を押されるように前に出ていき、牧師先生に祈っていただいたのが、献身への思いのきっかけです。その後、召しの確信が得られず、妻とも祈りの時を持ちましたが、みこころの時ではないという結論になり、時が過ぎていきました。60歳になり、定年退職を迎えた年の9月のCSのメッセージを準備しているときです。ヨハネの福音書21章のイエス様が三度「あなたはわたしを愛しますか。」というみことばがペテロにありました。と同時に私へも「あなたはわたしを愛しますか」と迫ってくださいました。私はこの時、ただ主に従って行きたいと祈りました。

今、主の召しを確認しながら、主とともに聖書神学舎で歩んで行きたいと思います。

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」詩篇37篇5節

みことばに懸けて

吉田 真太郎

昨年の11月に神学校で学ぶように神様からの召しを受けました。しかし、神学校にはできれば行きたくないというのが正直な気持ちでした。決して容易ではない神学生としての生活、奉仕神学生として教会に集う厳しさ、目の前が暗くなる気がしました。

神学校には行かずに済む道は無いのかと思いながら過ごしていたある夜、詩篇139篇が目に止まりました。「私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう」のみことばによって、神様からの召しを受け取ることができました。
今は、聖書を学びたい、人生を懸けるイエス・キリストについてもっと知りたいという願いが与えられています。そして、その学びのただ中に置かれていることを感謝します。

先のことは私の目には見えませんが、詩篇37篇5節「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる」のみことばを握りしめ、神様に明け渡していきます。

03 2016年度卒業生
New Graduates

左から、坂上、前原、髙野、横田、依藤

卒業生を送る会で（クイズ）

鞭木元校長ご夫妻に感謝

真心もてただ主に感謝す 賛美

氏　名	奉仕先
聖書神学舎本科 [5名]	
髙野（たかの）　望（のぞむ）	郡山キリスト福音教会 / 福島県キリスト教子ども保養プロジェクト（通称）ふくしまHOPEプロジェクト
前原（まえはら）　将太（しょうた）	広（ひろ）福音キリスト教会
横田（よこた）　真理恵（まりえ）	東大宮福音自由教会 / (高校生聖書伝道協会・協力スタッフ)
依藤（よりふじ）　慎太郎（しんたろう）	泉キリスト教会
坂上（さかうえ）　瑠津子（るつこ）	(高校生聖書伝道協会・協力スタッフ)

大切なこと

髙野 望

皆様からのお祈りと献金により四年間の研修生活が支えられ、宣教地へ遣わされようとしています。宣教会での学びは、聖書を読むための前提の前提の前提のような学びが多くありました。それは地味で、目立たないものです。しかし、建物を建てる時の土台のように、大切な基礎を据えていただいた気がします。

宣教会最後の授業は、それぞれが読んできた「祈りについての本」の内容を分かち合うというものでした。まるで祈りについて初めて聞いたかのように驚きました。祈りの重大さに気付かされたからです。どんなに熱心でも、どんなに聖書を学んでも、祈りがなければ何の価値もない。そして、信仰者の真の祈りに主は必ず答えられる。つまりは、主を信じることこそ全てなのだということです。最後の最後に最も単純で、最も大切で、最も見失いがちなことを教えられたようです。主の御業が為されるために、どうかお祈りください。

いのちにまさる恵み

前原 将太

私は何も知らない献身者として聖書神学舎に導かれてきました。古い自分を残して、人々とぶつかり続けました。それでも主は私を憐れんで、失敗のたびに、チャペルの説教でみことばを語りかけ、授業で聖書の理解を深めるたびに私の心を砕かれました。

愛と謙遜と忍耐を持った先生方、笑いと涙と祈りをともにしてくれた素晴らしい研修生仲間、杉戸キリスト教会の先生ご夫妻と愛する兄弟姉妹の祈りと支え、奉仕教会の方々との交わり、何より愛する伴侶・栄との出会い。

主の恵みとご真実はいつも私のそばにありました。原典の釈義を通して、キリストの十字架の大きさと自分の小ささを思い知らされました。卒業を前にして、自分はまだ何も分かっていないと教えられ、出発点に戻ってきたような気持ちがしています。

こうして愛する学び舎から遣わされようとしている今、私の心に強く迫ってくるのは、「あなたの恵みは、いのちにもまさるゆえ、私のくちびるは、あなたを賛美します」(詩篇63:3)というみことばなのです。

主の平安に支えられて

横田 真理恵

毎年先輩方の卒業の時期が近づくと、周囲が心配するくらい号泣していた私が、いざ自分の卒業をこんなに穏やかに迎えるとは自分自身が驚いています。

それは言葉に表せない主の平安に支えられているゆえであることを知り、いよいよ主が遣わそうとしてくださっているのだと確信が強められました。

この四年間は毎日が楽しく、一週間が始まったと思うと終わり、また新しい一週間を喜びとともに迎える、ということをくり返しているうちに月日が流れ、卒業の日を迎えました。

大好きな学び舎を去る寂しさ、自分の未熟さに対する不安はありますが、満ち足りる心を伴う敬虔さを日々主から与えられつつ、みことばに仕える主のはしためとして生涯、歩んでまいりたいと願います。

主に遣わされる者であるという事

依藤 慎太郎

この学舎を巣立つ春に、強く覚えさせられている言葉を記し、第一歩を踏み出すための勇気と致します。これらはどれも主の戦いに先に遣わされておられる諸先輩方からの言葉です。まず第一に、「卒業する以上は『卒業したてのひよっこです』という言い訳は絶対にしない。プロフェッショナルとしての意識を持つ」という事。しかしそれと同時に第二の言葉、「すでに卒業した等というつもりにならず、今も神学生で有るかの如くに変わらず基本を大事にする。謙虚にみことばの学び手としての探究心を持ち続ける」ということです。この二つを矛盾なく自分の中で常に持ち続けなければなりません。そして、もう一つ。それは「臆病者は主の兵卒に連なることはできない」ということ。戦いは激しく辛いでしょう。しかし「なまけ者は言う。『獅子が外にいる。私はちまたで殺される』と。(箴言22:13)」とあるように、「私の手を鍛えてくださる主(2サムエル22:35)」を信頼しない者は主の戦いに相応しく無いと考えています。ただ主だけに期待致します。

卒業にあたって

坂上 瑠津子

学び舎で過ごした三年間は、神様の恵みとあわれみを実感する日々であったと思います。みことばに真剣に向き合う中で、自分の気づかなかった罪が神様の前で露わにされ、ハードな日々の中で、自分の能力の限界に直面させられました。自分の信仰の薄さに愕然とさせられたこともあります。

しかし、私が悩み苦しんでいるとき、神様はみことばを通して、私の心を探り、教え、励まし、あわれんで下さいました。こうして、卒業に導かれたことは、神様の恵みでしかありません。

三年間、多くの祈りと励ましをもって私を励まして下さった諸教会のみなさまに、そして神様に心から感謝しています。

それと同時に、この三年間は、伝道者生涯の通過点にしか過ぎないとも思っています。卒業後も、この弱き無力な者が、主のしもべとして忠実に仕えていけるよう祈り続けて下されば幸いです。

研修生を送り出す教会へ

三輪 敬太
Keita Miwa
高崎キリストチャペル 長老

聖書神学舎に研修生を個人の信仰のヴィジョンだけによるものではなく、教会全体の祈りにより送り出すことは、ブレザレンの流れに属する教会として決して容易な事ではありませんでした。一八二九年に英国ダブリンに始まったブレザレン運動がその初期にクエーカー派の「内なる光」の教えの影響を受け、その結果、解釈学など神学を不要とする思想が大勢を占めるに至りました。しかし、聖書の真理を堅持、宣教するためには、みことばによる教育・訓練を欠かせないのは言うまでもありません。これを怠れば諸思想の渦に巻き込まれてしまうでしょう。しかし、教会単独でこれを行うことは困難であり、限界があります。幸いにも、高崎キリストチャペルでは次世代を担う兄弟姉妹だけでなく、教会全体も聖書の専門教育の重要さを認識し始め、教会の祈りの中に研修生を送り出すことが出来るようになりました。聖書神学舎にて、みことばによる教育・訓練を修了した兄弟たちが、みことばにより主キリストと教会に仕えている事実に、ただ感謝しております。

会堂外観、内観

これまで通り、これまで以上に

高本 現
Gen Takamoto
秦野詩音キリスト教会 牧師

日本で宣教師として活躍し、アメリカの神学校でも教鞭をとられたR・マクルキン先生が、聖書信仰に関連して、次のようなことばを残しておられます。「伝統や文化あるいは自分勝手な理由によって解釈するのではなく、本来意図されたものが何であるかを熱心に注意深く求め理解することに努めなければならない。」一人でも多くの魂に福音を届けようと励む伝道者には、柔軟さと同時に、聖書に対する妥協のない忠実さが求められています。ところが今日、福音派に属する伝道者の間で「福音的」とか「聖書的」という用語の意味することが、一段と不透明になってきていることに不安を隠せません。また、時代のニーズや社会的責任に応える必要を覚えつつも、伝道者の最も大切な使命は、十字架の福音を正しく解き明かすことだと確信している必要が一層強まっているように感じます。これまで通り、これまで以上に、「聖書信仰とは何か」を明確に教えながら、直接、みことばに立ち返って聞くことの大切さをご指導願います。新入生を送り出す群れとして、宣教会での学びと訓練に期待しつつ、「祈り支える」働きを担っていきたいと願わされています。

会堂外観と重田神学生送別会

File No.001

再び、シャアライムに立って

エラの谷のヒルベト・カイヤファ遺跡

津村 俊夫
Toshio Tsumura
聖書神学舎 研究図書主任、図書館長

「ペリシテ人は戦いのために軍隊を召集した。彼らはユダのソコに集まり、ソコとアゼカとの間にあるエフェス・ダミムに陣を敷いた。
サウルとイスラエル人は集まって、エラの谷に陣を敷き、ペリシテ人を迎え撃つため、戦いの備えをした。ペリシテ人は向こう側の山の上に、イスラエル人はこちら側の山の上に、谷を隔てて相対した。」

（1サムエル17:1–3）

聖書考古学資料館の第10回聖書地理研修旅行のことは、数ヶ月前から出版社と編集委員会（「新改訳2017」）に伝えてきたものの、果たして、新しい翻訳聖書の編集状況からして参加できるだろうか、出発前日まで不確定要因がありました。古希を数年前に迎えていた私に、編集に関わる多くの課題と共に、委員長としての言葉にならない重責もあり、その上、数年来の持病がなかなか治らず、血圧が急上昇したりして、数週間前から疲労困憊していた私でした。果たして、この旅行の団長としての任に堪えうる健康が与えられるであろうか。果たして、病気をしないで帰って来れるだろうか等、様々な心配がありました。

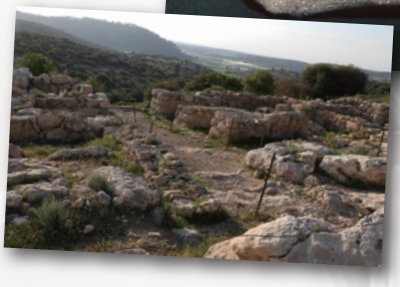
しかし、イスラエルの遺跡を訪れるうちに、心地良い眠りから覚めた者のように、私のうちに新しい力が沸々と湧き上がってくるのを感じました。何回も訪れた遺跡や名所であっても、そこに再び身をおくことによって、様々な事柄を思い出し、違った角度から聖書を見直すことが出来るのです。直前まで、文字原稿の校正に没頭し、コンピュータの画面ばかり見ていた私にとって、聖書の記述の背後にある現実に引き込まれるような、十日間の充実した楽しい旅でした。十数年に及ぶ聖書翻訳の疲れが吹っ飛ぶような経験でした。

中でも、エラの谷のヒルベト・カイヤファ遺跡を再び訪れ、それが聖書のシャアライム(1サム17:52。ヘブル語シャアル「門」の双数形)という名前が示すごとく、城門が二つあり——通常の城塞都市には城門は一つしかない——、一つが南のダビデとゴリアテが戦ったエラの谷の側にあり、もう一つが西側にあって、ペリシテ人の町ガテやエクロンの方に睨みをきかせていたことを、この目で見届けることができたことには特に感慨深いものがありました。その直前に、ペリシテのガテと言われているテル・ツァフィ(Tell Tsafi)を訪れ、360度の見晴らしのきく、遺跡のアクロポリス（頂点）に立って、エラの谷方面を確認したばかりでした。西の城門に立ち、直ぐ手前のアゼカの向こうにガテがあることをこの目で確かめることが出来ました。

そのほか、イエス・キリストが歩まれたエルサレムで、ローマ時代の下水道を自分たちの足で600m歩いて確かめたり、ヘロデ大王が自分の墓として造った壮大なヘロディウムの上から、旧約の預言者アモスの出身地であるテコアを遠くに望んだり、バイブル・ランド博物館で、現存している最古のヘブル語碑文であるカイヤファ・オストラコンを見、それが写真で見ていたよりもはるかに大きかったことに驚いたり、実物を見てこそ味わえる喜びが多くありました。

◀ エラの谷。シャアライムから、谷の向こう側のソコを望む。左手後方はエルサレム、ベツレヘム方面。

▲ 地名ソコが記されている、壺の把手の「ラメレク碑文」



◀ シャアライムの西門。アゼカ、ガテ方面

聖書宣教会通信 No.169 発行者：岸本 紘 〒205-0017 東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel 042-554-1710 Fax 042-554-5562 http://www.bibleseminary.jp/ 振替 00150-6-34971（聖書宣教会）

羽鳥明先生の思い出

鞭木 由行
Yoshiyuki Muchiki
聖書神学舎 研修生活主任、特任教師

羽鳥明先生は、4月10日に96年にわたる生涯を全うして天に移されました。その勝利の凱旋をたたえると同時に、ご遺族の上に主の慰めが豊かにありますようにと、聖書宣教会からもお祈り申し上げます。

羽鳥明先生は、太平洋放送協会のラジオ牧師、また大衆伝道者としてつとに有名ですが、私たちの聖書神学舎にとっても大切な働きを長年にわたって担ってくださいました。学生時代から舟喜順一先生と親交があり、舟喜順一先生、ドナルド・ホーク先生とともに聖書神学舎を立ち上げ、その後、長年に渡って、聖書神学舎の理事長として舟喜順一校長とともに、二人三脚でこの学舎を導いてくださいました。

私にとって羽鳥明先生との交流は限られたものですが、最初の思い出は「都民イースターの集い」における説教者としてのお姿でした。当時、羽鳥明先生は、本田弘慈先生と毎年交代するように「都民イースター」の集いを導いてくださり、口の両端に泡を吹きながら、熱心に復活のメッセージを取り次いでくださったのを良く覚えています。あの頃、日本の福音派は、一致した聖書信仰のもとで宣教協力が大きな実を結んでいた時代でした。

私が聖書神学舎に入舎したときは、羽鳥先生は理事長としてだけでなく、まだ教師のひとりとして名を連ねていました。多忙を極めていた羽鳥先生が教壇に姿をあらわす機会は、なかなかやってきませんでしたが、私が2年生の頃だったと思いますが、やっと羽鳥先生の『新約各書』が開講されることになり、私たちは先生からは「テモテへの手紙第一」を教えていただきました。そのクラスの雰囲気は非常に霊的で、授業後学生のひとりが「まるで聖会に出ているようだ」と評したのはクラス全員の共通した印象でした。その影響力は、一神学校に留まるものではなく、戦後日本の福音派にとって大きな足跡を残されました。心から感謝いたします。

2016 年度収支決算概要 / 2017 年度収支予算概要

単位/千円

収入の部	2016年度予算	2016年度決算	2017年度予算
維持献金	30,500	27,717	28,500
指定献金(研修生)	24,400	25,336	26,557
特別指定献金	5,750	8,765	8,500
その他収入	5,912	11,901	6,010
収入の部合計	66,562	73,719	69,567

支出の部			
活動費	5,975	5,427	6,410
管理費	12,303	11,027	14,709
人件費	36,854	36,732	33,648
諸準備金繰入	5,750	8,865	8,500
その他支出	5,680	11,617	6,300
支出の部合計	66,562	73,668	69,567
収支差額	0	51	0

主の御名をあがめます。

2016年度も、日々主にある皆様方の温かいお祈りと献金のお支えをいただき心より感謝申し上げます。

期中に収支バランスが大きなマイナスとなり祈らされましたが、年度末までに不思議なように必要が満たされ僅かですが黒字となり主の御名をあがめました。また、新年度予算は基本的には昨年実績をベースとしましたが項目によっては増減させていただきました。特に研修棟の修繕の費用を計上しました。

以上感謝をもって報告させていただきます。
(聖書宣教会財務)